

場所等モデルの改良，検討領域の拡大が期待され興味深い発表であったと思います。特に中堅企業や専門メーカーにおいて，ORの適用が輪を広げつつあることを頼もしく思いました。

つづいてC会場「シミュレーション」へ。島田（明治大）・福島（日本歯科医師会）氏の「歯科疾患SDモデル」はきわめてマクロな問題，平林・菅野・岡田氏（東京理科大）の「計算機犯罪のシミュレーション」はわれわれの身近に起こるかもしれない話題，門外漢のため内容的によくわからないところもありましたが，いろいろな面での研究がなされているものだと感じました。

昼休みはモニター会議に出席しました。特に責任のある会議でもなく，座談会・放談会といった感じです。

「モニターをやるとOR誌を熱心に読む」，「連載記事は大家に依頼し，初心者にもわかるように」，「投稿原稿の歓迎」，「軽い記事（海外事情，OR演習，歴史，失敗談，等）もあってよい」などの話から「実務家，学生会員に読ませる記事を……会員増加」，「ORの社会的啓蒙を」といった話題まで。注文を出すほうは勝手なことを申し上げられますが，階層・分野の異なる2000人からの会員のこと，編集，普及委員の方々のご苦労がよくわかりました。

モニター会議が14時前に終了し，その後はF会場「都市・環境システム」へ。

柳井氏（慶応義塾大）の「低開発国の人口—経済推移モデル」は，昨日のペーパー・フェア「第三世界とマイコン研究部会」の一環とのこと。「自給自足」，「ささやかな均衡状態」を前提とするモデルは，まさにネパールやブータンを連想させるものです。シミュレーションによるシナリオは従来定性的にいわれていたことを裏づける物語り。「1期15年というのは，すこし荒らっぽくすぎないか」との意見もありましたが，ポケット・マイコンといういれものの制約もさることながら，結果的には五十歩百歩という感じ。特別な資源をもたない低開発国の経済発展というのは，自力更生の観点からいえば八方ふさがりということで，別の次元，視角からの方策がないことには，どうにもならないという印象を強くもった次第です。

さらに後半のセッションで興味深いものもありました。が紙数も尽きたようなので，ここで筆をおくことにいたします。

終りに実行委員の1人として，会場の準備に当られた広島大学の方々に感謝いたします。本当にご苦労さまでした。（住山哲太 中国電力）

## 研究部会報告



### ● ビジネスゲーム ●

本研究部会では，昨年度下記のような研究会を開催いたしました。なお，特に断わらない場合を除いて，開催場所は大阪中央電気倶楽部です。

#### ● 第1回

3月13日(土) 朝尾 正氏（田辺製薬）の考案による実験計画法ゲームを氏のご指導のもとに行なった。具体的には，パソコンを用いて2因子，3因子の実験計画による極値探索のゲームを実施した。

#### ● 第2回

5月8日(土) 新参加者も含めて，研究会の今後の進め方，ビジネスゲームのめざすもの，方法論，応用などについて意見交換した。

#### ● 第3回

6月5日(土) 標準ゲームとしてのExecutive Gameの体験的な実施。村山先生（追手門学院大）のご指導の

もとにゲームを体験した。

#### ● 第4回

7月3日(土) 前日に引き続き Executive Gameを実施した。

#### ● 第5回

8月7日(土)「標準ビジネスゲームについて」の討論会。前回のゲームの体験をふまえて，標準ビジネスゲームのあり方について討論。ゲームの目的，要素のモジュール化，意思決定との関係など種々の意見が出された。

#### ● 第6回

9月18日(土)「ビジネスゲームの効率的開発・使用をめざす理論研究のために」という杉原先生（京都産大）のご発表を中心に，ビジネスゲームの分類基準や標準ゲームの意味，不確実性の意味などについて議論した。

#### ● 第7回

10月2日(土) 於・追手門学院大 村山先生の研究室にて，いくつかのパソコンによるビジネスゲームを実施し，比較検討した。

#### ● 第8回

11月20日(土) ビジネスゲーム作成の重要な柱となる経営計画に関して小島先生（和歌山大）に「経営計画の立案」という講演をしていただいた。